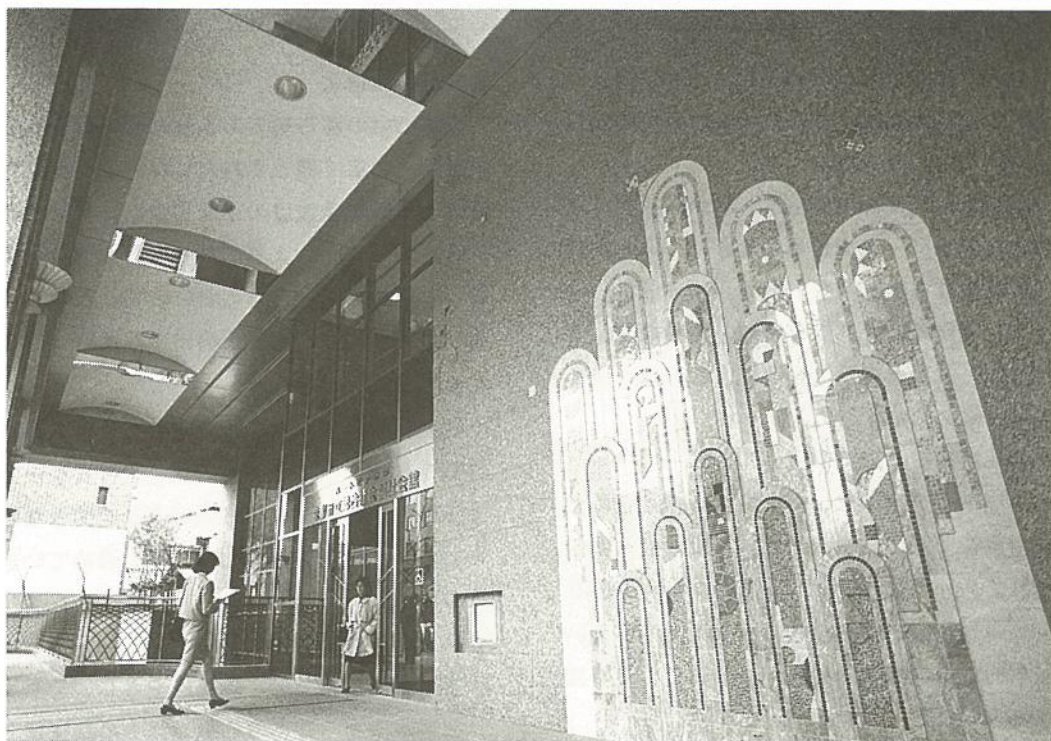


# アルパック ニュースレター



宇宙と家族のふれあいをイメージしたハートピア京都・レリーフ。  
(本文中に関連記事があります)

アルパック ニュースレター もくじ

1995年5月1日

- 「ハートピア京都」京都府立総合社会福祉会館が完成しました… 2
- 天女が舞い降りた「弥栄あしぎぬ温泉」 …………… 3
- 歴史街道と大阪の重層的な歴史 …………… 5
- 第2ステージの阪神・淡路大震災の復興 …………… 7
- 震災直後の一体感を忘れるな …………… 8
- 危ぶまれる関西イメージの低下 …………… 9
- 阪神大震災雑感 …………… 10
- ラフティング体験記 …………… 11
- アルパックプラネット4号発行のお知らせ …………… 12
- '95新人紹介 …………… 13
- 新刊旧刊書評紹介 …………… 15
- まちかど …………… 16

NO. 71

## 「ハートピア京都」京都府立総合社会福祉会館が完成しました

松木 一恭

ハートピア京都—京都府立総合社会福祉会館が、公共交通条件の良い烏丸竹屋町通の角地に新しく建設されました。

ハートピア京都の構想は、私が入社する以前からアルパックで携わってきて、あしかけ7年になります。構想、計画、基本設計、そして、実施設計及び工事監理と各段階で、常に行政・住民との話し合いによる合意形成をもとに進められました。

### 民間社会福祉活動の拠点

ハートピア京都は、本格的な高齢社会の到来や多様で高度な情報化といった社会的背景を踏まえ、府民福祉の一層の向上充実を図り、府民の民間社会福祉活動の拠点にふさわしい基本的な役割、機能を備えた会館として計画されました。

本会館の主な機能は、福祉に関する相談や情報の収集・提供、福祉人材の養成・確保、そしてボランティア活動の振興などです。また、最新の福祉機器、介護用品にふれて、体験できるフロアなどを設けるなど、多彩多様な総合的な施設構成としています。建物内部は全体に障害者や高齢者にとって、便利で移動しやすく、快適で、明るい安全な空間構成を基本としました。



外観 - 2 -

### 公共空間の提供

京都の縦の都市軸である烏丸通に接する建物正面に、広く開放されたピロティーを設け、その上下階に吹抜けの空間を設け、1階のホールとの一体化により広がりのある空間を確保し、府民の憩いとうるおいの場、人のふれあいを大切に、自然を演出するたのしい場を提供しています。

場所は京都御所から近いということもあり、外観を構成している素材の色彩や材質を決定する際も、行政や近隣住民の意見を聞きながら一つ一つ問題を解決し、工事を進めていきました。

### いきとどいた設備

空気調和設備では、環境にやさしい、クリーンエネルギーであり、低コストの深夜電力を主体とした温度成層型水蓄熱槽（水の温度差による密度差を利用した蓄熱槽）による温熱式空調システムを採用しています。

電気設備の特徴としては、キセノンランプ及び音声による非常口への誘導灯の設置、難聴者用ループコイルの設置、そして、避難階段及びE Vに監視カメラを設置するなど障害者に配慮しています。

また、衛生設備では、身障者に配慮した自動洗浄の衛生器具を設置したり、各階にウォータークーラーや給湯コーナーを設置しています。



福祉機器・介護用品の展示コーナー

## 建設関係者の方々に感謝

工事が終わったおりに過去を振り返ってみますと、多くの方々にヒアリングを行い、ご指導していただき、今までの福祉施設で問題になっていた工事上のおさまりが解決できたことに感慨無量です。また、その際に知恵と労力を費やしていただいた工事関係者の方々に感謝申し上げます。

(京都事務所 まつき かずやす)



トイレ

## 天女が舞い降りた「弥栄あしぎぬ温泉」

原田 稔

丹後地方にはかつて大きな王国があり、それが邪馬台国であったのではないかという説がある。大陸から船を出し海流に乗れば丹後半島にぶつかる。シルクロードの到着点が大和朝廷だとすると、大陸から九州へ入り内陸を通るルートと直接丹後へ入り南下するルートがあったとしても不思議ではない。むしろ、大量の物資を同時に運ぶとなると、後者のルートの方が主流であったかもしれない。となると、九州に邪馬台国があったとされる説があるように、丹後にもその可能性はある。

そして平成となり、ここ弥栄町でその裏付けとなる発見が続いている。

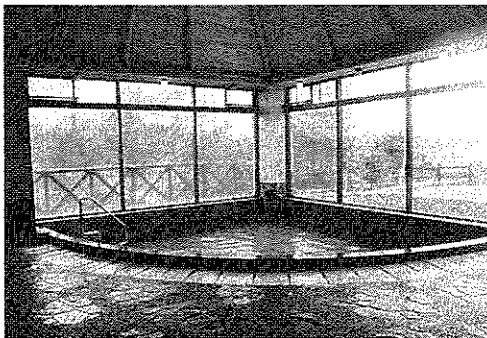
一つは平成2年に発見された日本最古級とされる古墳時代の製鉄コンビナート跡（製鉄遺構）である。当時、鉄は貴重品であり権威

の象徴であった。それをこれほどまとまって生産するにはよほどの力を持った人間がいたと推測される。しかし、同時代の製鉄遺構は岡山県でも発見されており、製鉄は九州、中国地方の方が主流であった。

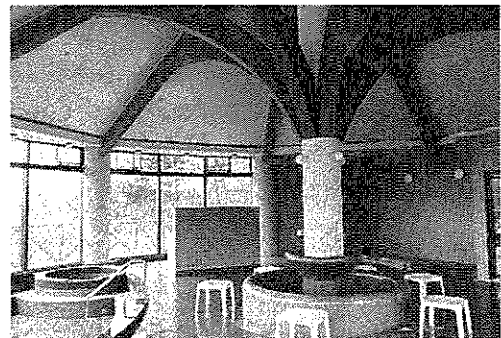
二つ目が昨年発見された日本最古の紀年銘鏡である。この銅鏡には青龍3年（235年）の銘文があり、「景初3年（239年）邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを出して銅鏡100枚などを与えられた」と魏志倭人伝に記述のあるその丁度4年前に当たり、その内の1枚の可能性を秘めている。

このことが、丹後邪馬台国説をいっそう興味あるものにし、弥栄町を一躍、古代ロマンの漂うまちにした。

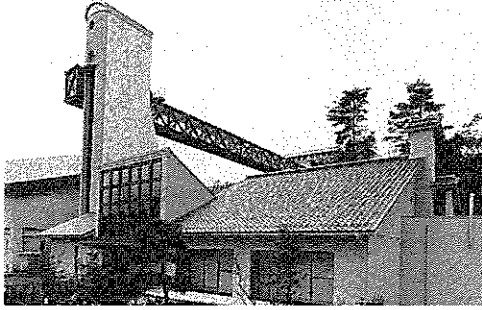
ロマンといえば、この地域には古くから伝



方墳のひのき風呂



円墳の洋風風呂



管理棟



露天風呂

わる羽衣伝説がある。「空から天女が舞い降りて来て…」というお馴染みの昔話である。

かぐや姫を始め天から女性が降りて来る昔話はいくつかあるが、この手の昔話を聞くといつも思う。人が実際に月に立ち、誰もがウルトラマンはM78星雲からやって来たことを知っている現代ならともかく、なぜそんな昔に、天から降りて来たり帰っていく発想が浮かぶのか。しかも作り話にしては描写がリアルではないか。これらの昔話は全くの作り話ではなく、ある実体験に基づいているのではないか。

もし天から女性が降りてきたことが事実で、その女性が何らかの形で現代まで語り継がれたとしたら……。

古代文明は地球以外から来た何者かが伝えたという話もよく聞く。

京都から車で片道3時間、毎回そんなことを考えながら車を走らせて行く先の弥栄町は、京都府の北部、丹後半島の中央に位置する人口6,200人あまりの山間のまちである。

日本海に注ぐ竹野川を中心に古くから農耕で栄え、そのまわりの丘陵地には先にも出てきた製鉄コンビナートの跡や数多くの古墳が今も点在する。

また、この地は古くより「ちりめん」の祖先ともいえる「あしぎぬ」の産地としても知られ、奈良、平城京に献上された物が今も正

倉院に保存されている。

さて、「弥栄あしぎぬ温泉」の名も「あしぎぬ」のような肌触りの温泉というところから来ている。

この平成7年3月5日にオープンしたが、その経緯は平成2年5月の温泉空中探査にさかのぼり、平成4年7月より温泉掘削を開始した。平成5年に1,500mの最終掘削が完了、212ℓ/分、50.4℃の恵まれた温泉が湧出した。

泉質はナトリウム・カルシウム・硫酸塩泉で、神経痛、慢性消化器病から、うちみ、切り傷と効能が幅広い。

我々は泉源よりの送湯管理設工の設計監理と建物の設計監理をさせていただいた。

送湯管の設計監理をさせていただきながら、町長や役場の方々と建物についても夢をふくらまし、話し合い、昨年の夏より建物の建設に着手。そして今年の3月、町政40周年という記念すべき年に5年の歳月を経てここに町民念願の「弥栄あしぎぬ温泉」が竣工を迎えた。



丘の上の温泉館

建物は体育館やグラウンドをはじめゲートボール場、テニスコートを備えた総合運動公園内にあり、この温泉施設が加わることでより運動公園としても健康づくりと保養を目的とした総合施設としても完成したことになり、今後、町民の新たな活力醸成と憩いの場となることと思う。

施設は管理棟と温泉館の二つの建物をエレベータータワーとブリッジでつないでおり、浴室のある温泉館は約20mの丘の上にある。

建物のデザインは、この丘にあったとされる円墳と方墳をモチーフにし、円形の部分と方形の部分は、それぞれ違った趣の浴室を備

え、日替わりで楽しめる。

眺望の良い丘の上という立地条件を活かすため、できるだけガラス面を大きくし、テラスを設けた。また、方形の浴室の外には露天風呂と滝風呂があり、竹野川を中心に広がる山水の景色が一望できる。

峰山から弥栄町に入り竹野川沿いの府道を北上するとやがて左手の山の向こうに丸いイブシ銀の屋根が光る。

この地に稲作や製鉄を伝えるために舞い降りた時から千数百年の歳月を経て……。

(大阪事務所 はらだみのる)

## 歴史街道と大阪の重層的な歴史

森脇 宏

### 歴史街道とは

歴史街道とは、近畿2府4県において歴史舞台を訪ねながら日本文化の魅力を体感できるルートである。官民で構成された同推進協議会により92年に策定されたマスタープランでは、歴史を古代から近代まで辿る5つの時代別ゾーンを結ぶ形のメインルートが設定され、各地の歴史文化を活かした7つのテーマルートが例示されています。

大阪は、メインルートの中で、京都・天王山を結ぶ「戦国～江戸時代ゾーン」と、宝塚・神戸と結ぶ「近代ゾーン」に位置づけられ、テーマルートの例示では、竹内街道、東高野街道、熊野街道、紀州街道などの古道を辿る「なにわ歴史ルート」が示されています。

### 大阪の重層的な歴史

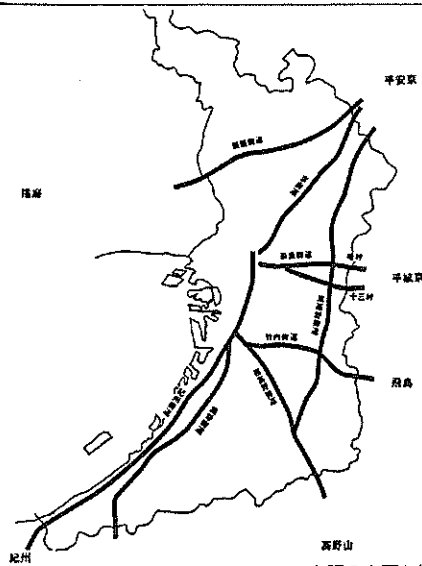
私は、歴史に弱い浅学者ですが、生後一年間と大学時代を除いて大阪に住み続けている“大阪人”として、こうした大阪の歴史の整理には積然としないものを感じてしまいます。

私が積然としないのは、大阪の歴史は戦国以降だけではないことと、竹内街道、東高野街道、熊野街道などの古道は、“古道”と一括できるのかということです。

結論から言えば、大阪の形成過程の必然として、大阪の歴史は古代から現代のものまで重層的に揃っており、この重層性が気になって積然としないと思います。

常時、大阪は歴史の表舞台にいた

大阪の歴史をみると、港としての難波津や堺の存在が重要で、古代から中世の都が、国際交流の窓口にしていたのが難波津等でした。古代では、難波津と飛鳥を結ぶ竹内街道が形成され、我国で最古の官道と言われています。奈良時代でも、難波津と平城京を結ぶ奈良街道（暗峠越、十三峠越等）が形成され、平安時代では、平安京と難波津は淀川や京街道で結ばれました。また、中世の堺は、“東洋のベニス”と呼ばれるほど経済的に栄え、その後の戦国時代へと続きます。



大阪の主要な旧街道

このように大阪は、古代以来、当時の都の政治経済の対外的な窓口として、常に歴史の表舞台に登場していました。したがって、大阪の歴史を戦国以降で代表されると、大阪人としては釈然としないところも残りますが、歴史街道は大阪だけの構想ではないため、他の府県との統一性等を配慮すると、このようにメインルートをまとめることも理解はできます。しかし、もう一つのテーマルートについては、大阪で完結できる構想であり、歴史の重層性・多様性を特徴として強く打ち出すことが望まれます。

### 大阪の多様な旧街道

既に触れた竹内街道、奈良街道等のような都と港を結ぶ街道だけでなく、大阪には様々な性格の旧街道があります。大阪府の教育委員会の資料によると、起終点等の位置が概ね把握できる旧街道は52街道あり、それぞれの街道が多様な歴史的背景を持っていると思われます。これらの旧街道のうち、主要な旧街道を抽出し、その性格や主な歴史資源等を整理すると、大阪の旧街道は概ね次の4つのタイプに分類できそうです。

#### ①国際港・難波津と内陸の都を結ぶ街道

- ・竹内街道（難波津～飛鳥）
- ・奈良街道（難波津～平城京）
- ・京街道（難波津～平安京） 等

#### ②全国的信仰の地と各地を結ぶ参詣の街道

- ・高野街道（堺・京都～紀見峠～高野山）
- ・熊野街道（難波～熊野三山） 等

#### ③経済拠点・難波と地方拠点を結ぶ街道

- ・紀州街道（難波～紀州） 等

#### ④大阪を通過する国土幹線的な街道

- ・西国街道（播磨～摂津～京都） 等

旧街道等に支えられた大阪の文化と経済

以上のように形成の契機から、4タイプに分けられますが、その後の発展の中では契機

大阪の主要な旧街道の概要

名称	形成時代	性格	主な経由地・歴史資源等
竹内街道	古代	飛鳥の都と難波津を結ぶ旧街道であり、日本最古の官道。	仁徳天皇陵、応神天皇陵、当麻寺
奈良街道	奈良時代	平城京と難波津を結ぶ旧街道。	暗峠、十三峠
京街道	平安時代	平安京と難波津を結ぶ旧街道。	淀川、枚方宿、洞ヶ峠
高野街道	平安時代	高野山と堺・京都（河内）等を結ぶ参詣の旧街道。	狭山池、富田林、紀見峠
熊野街道	平安時代	熊野三山（本宮・新宮・那智）と難波・京都を結ぶ参詣の旧街道。	熊野九十九王子
紀州街道	中世	経済拠点である紀州・岸和田・堺等と難波を結ぶ旧街道。	岸和田城、願泉寺(寺内町)
西国街道	戦国時代	京都～摂津～播磨を結ぶ国土幹線的な旧街道。	天王山、高槻城、椿の本陣

に制約されず、特に経済活動を支える機能が大きく追加されたと思われます。こうした旧街道等に支えられた商業や運送業等が盛んとなり、これが大阪の文化を特徴づけました。難波の商人文化は、その一つの典型であります。中世の河内の雄・楠木正成も、運送や商業を営んでいたとする説もあります。楠木正成は、商売の制約となる当時の幕府の制度に同業者とともに反抗し、後醍醐天皇の招きに応じ、商売で鍛えた合理主義を用いた策略

で、幕府軍を打ち破ったとされています。

このように、大阪の国際港としての位置や旧街道の発達を背景に、大阪の経済と文化が相互関連性を持ちつつ発展したと考えると、大阪の歴史街道を文化面と経済面の両面から把握するアプローチも有用で、こうした文化と経済を両軸とした大阪の歴史街道の構築が、今後の充実の課題のような気がします。

(大阪事務所 もりわき ひろし)

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

第2ステージの阪神・淡路大震災の復興  
—長期戦に備えた復興システムの確立を—  
震災担当 杉原 五郎

震災復興は長期戦に

阪神・淡路大震災後、すでに3ヶ月余りが経過しました。水道やガスなどのライフラインはほぼ復旧し、分断されていたJRもつながりました。震災直後たいへん厳しい対応を迫られた行政職員の方々にも少し息をつくゆとりが生まれました。しかし、甚大な被害を被った被災地の本格的復興の道のりを考えると、まだまだ道遠しの感があるのも事実です。むしろ、これからが復興の本番で、長期戦になることは避けられないように思います。

アルパックの対応

アルパックでは、この度の震災に対し役員及び中堅幹部社員を中心に対策会議を開き、活発に議論を行いました。そこで、被災自治体の復旧・復興をめぐる情報を交流するとともに、復興関連業務の進め方や専門的ボランティア活動の取り組みなどについて検討を深め、次の諸点を踏まえて、全社をあげて震災問題に対応していくことを確認しました。

- 自治体との接触を密にし、連携を強めよう
- 復興業務と提言活動に積極的に取り組もう
- 現場からの発想を大事にしよう

○人的つながりを最大限に活用しよう

○ボランティア活動に参加しよう

復興プロセスにおいて問われること

アルパックは、震災前から兵庫県や神戸市さらに阪神と淡路の市町と業務を通じていろいろな係わりを持ってきましたが、今回の震災に伴う復興業務を通じてより親身なおつきあいをすることとなりました。被災自治体では、本年の6月末をメドに復興計画の策定が急がれていますが、被災市民の生活再建と被災地の本格的な復興につながる、実現性のある復興計画にしていけるためにはさらに幾つかのハードルがあるように思います。全国はもとより海外の震災復興の経験などを含めて、多くの知恵と人材（マンパワー）の結集が求められます。

また、阪神・淡路地域の復興事業において国や自治体など公的機関が大きな役割を担うことは確かですが、市民サイドの自発的な復旧・復興のエネルギーを的確に評価し、その取り組みを支援していくことも大きな課題です。震災直後に発揮されたボランティアの活動が日常的に展開しうような仕組み（システム）を構築していくことが今とくに必要になっていると思います。

新しい時代の創造を

今回の大震災は、神戸、阪神、淡路地域に

大きな傷跡を残しました。また、戦後50年の間に形成されてきた「日本型システム」にもいろいろなほころびがあることがはっきりしました。

今回の震災によって厳しく思い知らされた幾つかの事実と教訓をしっかりと胸に刻んで忘れないようにすることが重要です。同時に、これから長期に及ぶと予測される復興プロセスにおいて、単に旧に復すること（復旧）に終わることなく、新しい時代が求める何かを創造していくことができるようにしたいものです。

（大阪事務所 すぎはら ごろう）

震災直後の一体感を忘れるな  
— JIA ボランティアに参加して—  
倉本 恒一

震災直後、JIA（新日本建築家協会）からの要請で、応急被災度判定調査にボランティアとして参加し、診断と共にさまざまな相談を受けました。今回の震災では、木造瓦葺きの住宅の被害が多かったといえます。その中で、在来工法の木造住宅は地震に弱いのか、瓦葺は良くないのかと聞かれ、そんなことはないと応えました。

私が受け持ったのは、延べ50～60件ですがその殆どが木造住宅で、その内、壁に亀裂があったり、瓦が部分的に落ちたりしているものの、構造的には支障が無いものが7割程ありました。但し、倒壊したり、建物が傾いたりした建物を見ると、老朽化したものや筋交いが入ってない建物が多く見受けられました。

瓦葺の屋根は頭が重くなるのでその分丈夫な骨組みにする必要があります。骨太な在来木造住宅は、かなり揺れても木は元にもどり、筋交いやボード張りで補強された壁をバラ

スよく配置することによって丈夫になることを説明に付け加えました。

建物は構造的に問題は無いとの診断に大抵は「よかった」と安心されるのですが、中には家庭内の問題まで相談され答えに窮しました。「このまま補修したのでは子供がいやがって家に戻ってこないで建て替えるべきか」、「補修する余裕も無く、家は住めない状態だと言ってもらったら息子のところへ行けるのだが」、「半壊か全壊でないと市から金が貰えない」等々。

あるRC造の棟続きの集合住宅では、その内一住戸は損傷が酷く取り壊す必要があり、それを除きその他は補修すれば使えるものでした。住民の意見は全部建て替えるべきだとする意見と補修して使うべきだとする意見の二つに分かれ、これからコンセンサスを得るのが大変という問題も有りました。この際建て替えるべきとする意見は、このまま補修したのでは将来的に不動産価値がなく、売り難いという経済的に余裕のある人の意見で、補修でなんとか凌ぎたいとするのは高齢であったり経済的にそんな余裕はない家庭の意見でした。

集合住宅では、設備配管が壊れ補修するにも共用配管が住戸の土間下にあたり配管スペースが狭く、やり替えるのにかなり費用が掛かるとか、そのため建物は使えても生活が出来ないと言う問題や本来改修の為の積立をしておくべきなのにしていないところが多く、また、皆の合意を取り、場合によっては無理な犠牲を払わなければならないとか、さまざまな問題が起きています。

震災後既に3ヶ月が経過し、復興に向けて努力がなされ、早くも建て替えが始まったところもあるようですが、まだ避難所生活をされている人々が多く残されていることや、建



で替えるかどうか結論が出ないままになって  
いる住宅も多く残されています。

震災直後、地図を持って目的の家を探して  
いると、倒壊した家の片付けをしている人が  
親切に道を教えてくれたり、何か一体感を感  
じましたが、時が経つにつれ通常に生活を始  
めている家の隣で、シートを被ったまま生活  
をしている家などを見ると、それぞれの事情  
も、意識の持ち方も落差が大きくなって来  
ているようにも思います。

まちの復興には、これからますます困難な  
問題が生じてきます。あの時の一体感を忘れ  
ずに切り抜けていくことを願っています。

(大阪事務所 くらもと つねかず)



危ぶまれる関西イメージの低下  
—東京から神戸の震災を考える—  
八木 延佳

前号の震災特集によせてお便りをいただ  
いております。その中で、東京からの視座でご  
意見をいただきましたので紹介いたします。  
大阪出身の若手で演劇の制作・プロデュース  
でご活躍中の八木延佳さんです。当社とは  
「第2回みろくの里国際演劇祭」などで協力  
いただいております。

※ ※ ※

1月17日午前5時46分頃、私は東京で起  
きていました。自宅で仕事（公演のチラシ制作）  
をしていました。その日の13時よりフジテレ  
ビで稽古があるため、6時には寝たのですが、

9時頃に大阪出身のプロデューサーに電話で  
起こされ、地震を知ったという次第です。

仕事がひと段落ついた3月1日に、阪神間  
の友人に会うために帰阪しました。そして、  
3月4日（土）・5日（日）の両日でJR須  
磨・鷹取・新長田・兵庫・神戸・元町・三ノ  
宮を歩きました。一言ではいえませんが、あ  
えていうならば、「人間の営み」がないとい  
うことです。視覚・聴覚・臭覚・気配などの  
全ての感覚（センサー）に、『営み』がひっ  
かかってこないのです。崩れた街並みを見て  
いると本当に気が滅入ってしまいます。不思議  
なことにより二日しか神戸にいなかったの  
ですが、大阪・東京の壊れた街が想像できてし  
まうのです。

東京での反応ですが、私のまわりに限って  
いいますと、他県から来た人は他人事ですね。  
やっぱり…。しかし、東京に三代前くらいか  
ら暮らしている人は、大変に敏感です。別の  
芝居の稽古に東京っ子の女優はなんとリュック  
サックをかついできたのです。中身は懐中  
電灯、カンパンなどが三日分入っていました。  
そんなことよりも私が一番心配しているのは  
「神戸」が東京のメディア、人々の間で禁句  
（タブー）になりつつあるということです。  
例えば、深夜ラジオでリスナーが「そして神  
戸」を唄いかけたのですが、DJはその電話  
を切ってしまいました。また、今私がやって  
いるブライダルシアターという仕事（結婚式  
で新郎新婦の馴れ染めを芝居にする）で、二  
人の初デートが神戸だったのですが、そのエ  
ピソードを削って下さいという注文がありま  
した。今、東京では「神戸」という単語は  
「死」を意味するのです。結婚式では、大変  
縁起の悪い言葉で使えなくなっているのです。  
これはとんでもないことだと思います。ハー  
ドの復興だけではなくイメージの復興もしな

ければなりません。観光都市・ファッション都市・港町・洋菓子の町―「神戸」にとって大きな打撃です。「悲しみの町」「死者の町」―神戸になってしまったのです。東京の関東大震災、広島・長崎の原爆と並ぶほどのインパクトが日本中にあったわけですから、50年位はこのイメージは消えないのではないのでしょうか。ということを考えながら、関西全体を見てみますと、京都・奈良という「過去のイメージ」がついていた都市に加えて、神戸も歴史の中で固定されて「過去の都市」としてのイメージがつくということです。

現代を生きているのは、関西では大阪だけという「イメージ」がついてしまう恐れがあります。つまり、この震災を機会に関西の「イメージ」が全体として「たそがれ」に向かうかそれとも、大阪一極集中をすすめるか…どちらかになるのではないかとということです。大阪一極集中とはわかりやすくいえば、「イメージ」として「吉本化」ということです。「イメージ」とは恐ろしいもので、実際そこの住んで働いて暮らしている人々とは、全く別の所でどんどん増幅されていきます。

私個人としましては、関西全体の「イメージ」が吉本になるのであれば、大阪も含めて関西全体が「イメージ」としてたそがれて欲しいと思うのですが…。理想は大阪の「イメージ」が東京のように多様化するということです。実際、多様なのですが、うまく全国発信できていないようです。イメージ戦略が大切です。神戸・阪神間の復興でも、どんな街づくりをしたいかということハードの面だけではなく、どんなイメージを発信する街にしたいかということやらなければ、この震災でマイナスイメージは拭いきれないと思います。

広島・長崎が被爆の町という、モノイメー

ジしか戦後50年の間、持てなかったことは大変に残念なことだと思います。もちろん、被爆体験は重要です。今後、神戸が「防災の町」というモノイメージでまつり上げられることを避けなければなりません。そんな単一で負のイメージでは人は集まってきません。人が集まらなければ、産業も文化も興りません。

放送・出版・新聞などのマスコミ（イメージをつくる）は東京に集中しています。その東京で神戸のイメージは著しく低下しています。それが全国・全世界に流れます。大阪を中心として関西は自分の口でしゃべらなければなりません。

このままでは、震災を契機に関西全体のイメージが低下するのではないかと、危機感を抱いています。

（演劇作家 やぎ のぶよし）

## 阪神大震災雑感

岡本 壮平

### 仁義無き通勤レース

「阪急電車が御影駅に到着。ドアが開いて各馬一斉にスタート、改札はいきなり大混雑。馬群に吞まれないよう気を付けて遅い馬を牛蒡抜き。狭い路地をすり抜けて、壊れた常夜灯を飛び越えて神社の境内をショートカット（誰が発見したのか）。代替バスの鼻先をかすめて、山手幹線の信号を上手くクリア。公園をショートカットし、倒壊マンションを横目に最後の直線。でも、やっと到着したJR住吉駅はやっぱり大混雑。」

これは、阪急御影→JR住吉の通勤レースの模様である。被災地の行進は延々と、そして黙々と続いた。朝のラッシュはピリピリとした緊張感が充満し、夜のラッシュは重苦し



御影と住吉を結ぶ自然発生の通勤幹線路  
い疲労感が漂っていた。

### JR復旧、そして震災は過去となる

しばらくしてJRが全通。当初は、車窓からそごう神戸店等の解体の様子が見えると、「あ〜」と寂しげな声や溜息があちこちから聞こえた。神戸に住んではいなくても、神戸の街に愛着を持つ人が大勢いる。

今はもう、以前と同じ通勤風景が戻っている。車窓の風景は悲惨だけど、車内の雰囲気は落ちついている（慣れ?）。震災は急速に過去となりつつある。今、振り返ると…。

#### ①新快速は偉大だ

JR全通の今、新快速の快適さは天と地だ。新快速に限らず、地震前は「当然」のものが実は「大切」だということに気づいた人も多いのでは。

#### ②女子高生は立派!?

深刻そうに眉間にしわを寄せている大人達に比べ、笑顔でおしゃべりしている彼女たち（多分、彼女たちも被災者）の脳天気な元気、パワーは案外重要かも。

#### ③まちは誰のものか

定住人口論に加えて交流人口論が華々しいが、単に「住む人」「行き交う人」ではなく、そのまちに愛着を持つ人が大事。「みんなのまち」は「誰のものでもないまち」だ。「私のまち」という想いを創りたい。

（大阪事務所 おかもと そうへい）

## ラフティング体験記

中村 孝子

ゴォー。キャーッ。

谷間に反響する叫び声と水しぶき。ラフティングを楽しむべく豪州のケアンズを訪れた。

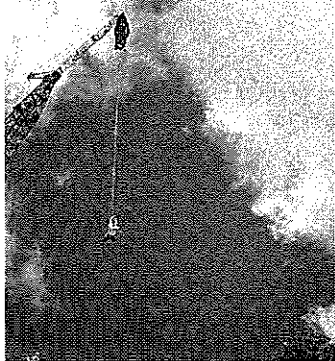
ラフティングとは、ゴムボートに乗って激流を下るスポーツで、最近日本でも徐々に人気が出てきている。（日本では、長良川、北山川：奈良県、吉野川：高知県でツアーがあり体験できる。）

行き先はケアンズから南に約2時間離れたところに位置するタリー川。心配していた水量は、毎日上流のダムから放水があるので、雨期、乾期関係なく年間を通して一定とのこと。早朝出発し約13kmを一日かけて下った。最初はボート一艇につきベテランリバーガイド一人が乗ると聞いていたので少し安心していただけ、外人ガイドから簡単過ぎる？説明を受けた時、不安は期待を上回ってしまった。「大丈夫、ボートから落ちたら必ず助けます…」と言われたものの、“激流の中で複数の人が落ちたらどうなるの？”“私は泳ぎが苦手だ”etc…。以前、吉野川の大歩危でカヌーで死にそうな目にあった私の脳裏には様々な思いがよぎった。しかし、今さら引き返せない、来てしまったのだから…。

ライフジャケットとヘルメットという装備でいざ出陣。途中「悪魔のトイレ」「鮫の歯」



激流下りは緊張と興奮の連続



落下は一瞬。でもその時間は意外と長く  
感じられるから不思議

「ジグザグ」「一旦停止」などと命名された数々の難所を切り抜け、ボートは一瞬にして絶叫マシーンと化する。

タリー川は、落差大、ストッパーウエーブが続く長い川。ガイドの指示に従って、パドルを握りしめる手にも力が入る。目前を行くボートは一瞬にして視界から消えてしまう。叫び声は瞬間に川の号音でかき消され、岩がどんどん迫ってくる。ここで落ちたら洗濯機状態になるだろうなと思いつつ次々と難所をクリアしていくのは、なんとも言えない快感だ。また、途中瀬場から見た風景は、熱帯雨林なのになぜか日本の風景に似ていて不思議な印象を受けた。

私が参加した日は、7～8人乗りボートが24艇出ていてうち約半分が日本人で賑やかなこと。その大半が20～30代の新婚カップル、OL・学生グループで占められている。ピークはお正月ではなく卒業シーズンである2～3月で、ガイドにはワーキングホリデーを利用した日本人の活躍ぶりが目についた。

しかし、ラフティングの怖さもさることながら、バンジージャンプ<sup>\*</sup>にはもっと恐怖した。

(大阪事務所 なかむら たかこ)

<sup>\*</sup> バンジージャンプ

橋の上から飛び降りる決死の遊び。ゴム製の命綱を両足に結び、高所から落下する恐怖感を味わう。私が飛んだのは高さ約30～40m。

アルパックプラネット 4号発行のお知らせ

金井 萬造

この度、アルパックの技術情報誌として『プラネット4号』を発行いたしました。これまで



は、所内誌として発行してまいりましたが、これからは情報化社会に対応して、所外への技術情報発信誌と位置づけ、適宜発行してまいります。

さて、阪神・淡路大震災の救命、復旧、復興の過程を経過し、現在、災害に強い安心して住める快適なまちづくりの課題が大きなテーマになっています。今号は、地震以前に編集方針がほぼ固まっていたのですが、若干の震災特集を取り上げております。

執筆は、所員を中心とした手作りの編集、発行を考えております。どうぞ、本誌を暖かく見守っていただき、「アルパックニュースレター」と併せて、本誌もご愛読いただきますようお願いいたします。

また、ご希望の方には、1冊に限り無料(ただし送料 240円切手にてご負担)にて進呈いたします。大阪事務所企画推進部中西までご連絡下さい。

(代表取締役社長 かない まんぞう)

編集局よりお願い  
新年度を迎え、読者の方々で住所・所属先など変更事項がございましたら編集局までご一報をお願いします。

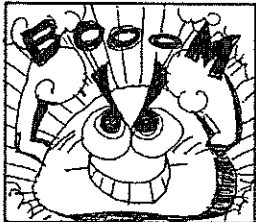
## ‘ 9 5 新 人 紹 介

巷では、阪神大震災、地下鉄サリン事件、オウム教、円高など何かと暗い話題ばかりですが、そんな話題を吹き飛ばすかのようなパワフルな新人が今年もアルパックにデビューします。’95年の新入社員をご紹介します。皆さん今後ともよろしくお祈りします。

### 【京都事務所】

#### 田北 修（第5計画部）

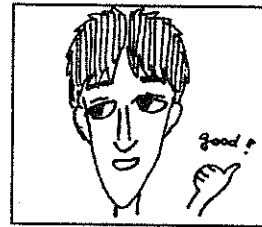
京都の金閣寺、大徳寺、衣笠山、左大文字をテリトリーに育ち、周辺の野山を山猿のように遊んできました。現在も北区に住んでいます（自然が多くて天国！）。在学中は、京都から離れ大阪に下宿していたので、まちなみの変化に戸惑っていますが、新しい京都の良さを再発見していきたいと思っています。他人に負けないことは“しつこさ”“こってりさ”そして麻雀。今回の震災では、吹田市にある大学も被害にあいました。個人的ですが西大阪方面で救済物資の輸送、再建活動に協力をしました。今後の人生の課題としては、仕事と生活の両面で声を大にして「俺にまかせろ！」と言えるような人生を送りたいと思っています。



#### 藤 正三（第3計画部）

ご存知のとおり「きしめん」「みそかつ」「みそ煮込みうどん」「ういろ」など味の濃い独特な食べ物のある名古屋がふるさとです。私の特技(?)は「食欲が旺盛」「声が大きく

内緒話ができない」「睡眠をあまり取らなくても平気」ということです。最近、読んだ本で「日本の高齢者福祉」（山井和則他著）というのがありますが、高齢者、家族、行政の立場を理解し、協力の大切さ、また今後まちづくりなどで、社会的弱者である高齢者に配慮していく計画の必要性を感じました。これからは人々が快適に安全に生活ができ、住む人、訪れる人に喜んでもらえるまちを計画していきたいと思っています。



### 【大阪事務所】

#### 中嶋 久枝（第4計画部）

源氏発祥の地である川西市に住んでいます。川西では、いちじくをたくさん作っていて、小学校の給食ではよくいちじくジャムができました（お味の方は残念ながらいまひとつでした）。今回の震災では、大学が被災地の神戸にあったため、地震直後は登校できませんでした。1月下旬から2月上旬にかけて調査に参加し、修論等がある中、これから自分がどうすべきなのか、何がしたいのか、何ができるのかを神戸と川西を行き来する中で考えさせられました。5年後の私は、家から独立し精神的にも肉体的にも自立し、社会の一員として落ち着いて生活を送りながら日々色々

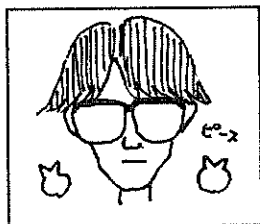


なことに目を向け、アンテナを張った状態をキープしたいと思っています。

【名古屋事務所】

田中 祥文

ふるさとは、愛知県知多郡武豊町です。浦島太郎の伝説は同町の豊貴で生まれたとの言い伝えがあります。また、町名から想像してピンとくる人もいます。競馬の武豊騎手が武豊町駅前を馬に跨り行進したという町です。自慢できるのは、自分の子供です（1才になる双子の男の子と女の子で、親バカですがカワイすぎる！）。近い将来、アルパックの仕事にも慣れ、若い人を指導していく立場になっているといいなと思っています。



西村 研二

出身はお茶とお水がおいしい三重県は亀山市。また皆さん亀山には、大和武命やまとたけるのみことのお墓があることをご存知でしょうか（宮内庁のお墨付き）。絶対という訳ではありませんが、他人に負けられないことは、酒の席での持ち芸らしいです（自分ではよくわからないのですが）。もし、漫才をやるとしたらボケになり、ダウンタウンの松ちゃんを目標にしているでしょう。

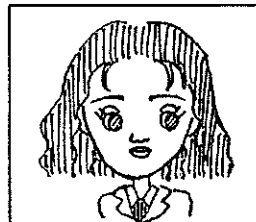
今度の震災では、巨大構造物に恐怖を感じ、



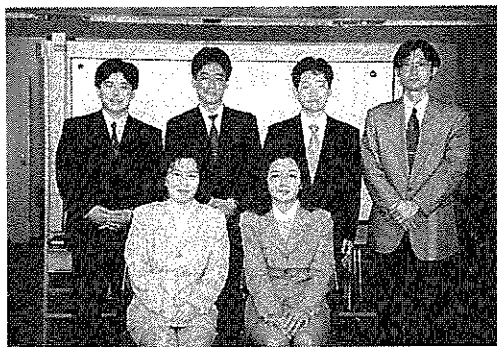
今新たに構造とデザインを考え直したいと思っています。

飯島 千歩

夏は涼しく、冬はスキーができる大変環境のよい長野県がふるさとです。長野はとても変わった食べ物を日常で手に入れることが可能です。例えば、ハチの子、さざ虫、イナゴの他たくさんの動物性タンパク質があり、通にはたまらない味だそうです。今まで読んだ本で印象深かったものは、ピータ・マイルの「贅沢の探求」で、誰しもこだわりはあると思いますが、著者のこだわりはすごい一言に尽きます。そのこと自体の善し悪しより、自分も何かこだわりのある人生を送りたいと痛感させられる内容でした。他人に負けられないことは、自己満足かも知れませんが料理の知識です。苦勞しながら食材を手に入れ、世界各国の料理が完成した時の満足感は最高！



※□内は、新人同志、お互いの顔もしくはイメージを、ビジュアル化してもらいました。



上段左から、田北、藤、西村、田中  
下段左から、中嶋、飯島

## 新刊旧刊書評紹介

山根 一真 著

小学館

## 『メタルカラー』の時代

紹介 山下 宏

「週間ポスト」連載の「『メタルカラー』の時代」、読まれている方も多いと思います。この本はこのタイトルになる以前の1991年4月から1993年5月までの「ビジネス生モノ市場」「新マエストロ名匠列伝」から73話、84人へのインタビューを再編集し、1993年9月に出版されたものです。

「メタルカラー」、著者の造語ですが、カバーの返しの部分に辞書風にその言葉の意味が書かれています。

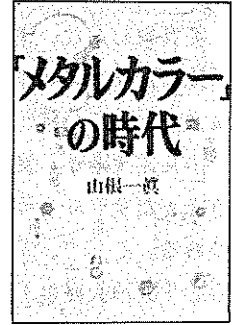
メタルカラー <名> [metal collar] (1)金属製の襟。(2)日本の工業力を世界のトップ水準に引き上げた産業界の主演。(3)創造的技術開発者の総称。ホワイトカラーとブルーカラーという従来の就労者分類からこぼれていた集団に対して「金属の輝く襟を持つ者」として、1993年に命名された新しい概念。その人口は十万人と推定。

著者の意図とユーモアが表れています。

本書で取り上げている話題は多岐に渡りますが、内容を簡単に紹介することは難しいのですが、あえて言うと、巨大な土木技術から情報化機器の極小技術、それらに係るシステムやソフトウェア、それを支える裏方的職人芸のようなものを現場で携わる人々に焦点を当て、エピソードを交えて紹介したもの、となるでしょうか。以前、「匠の時代(内橋克人著、1978~1981年出版)」という本がありましたが、その1990年代版ということもできるかもしれません。

そして、この本の面白さは、ともすると堅く難しくなりがちな技術の内容や開発者の苦勞話を綿々と綴ることはせず、すべて対談形式で1話10ページ以内で何とも軽妙に紹介し

ていることです。そのため、会話のやりとりの妙が味わえ、思わず笑いを誘われる部分があったところがあり、言葉の終わりに(笑い)という文字がたくさん出てきます。例えばこんな調子です。



山根 ところで橋って、これまでは対岸どうしを結ぶ(中略)経済効果だけを考えたでしょ。でも横浜のベイブリッジの混雑を見ると、美しい橋は優れた「遊び場」でもある(後略)。

石倉 瀬戸大橋も眺めがいいので、個人的には橋の途中に展望台やレストランがあってよかったと…。

山根 いずれ完成する東京湾横断道路では、橋を全部ホテルにすべきなんだ。

石倉 技術的にはなんぼでも可能です。

山根 でもカップル宿泊者ばかりじゃ、橋は毎晩大揺れになっちゃうから、ボルトの数を増やさないと(笑い)。

(「ミリ精度で架けた4,500トンの橋」より)

子供の頃、「じどうしゃ」などという本に、目を輝かせて見入ったものです。この本は、必要に迫られてとか、身構えて知識を身に付けようとするのではなく、素直な知識欲を満たしてくれるような、「大人向け『かがくとしゃかい』の本」です。阪神大震災後、技術過信という言葉を聞きます。本書はこの不安な気持ちに元気を与えてくれます。

(名古屋事務所 やました ひろし)

## まちかど

復興に向けたまちづくりの芽生え

中塚 一

戦災をしらない世代にとって初めて見た「焼け野原」。「焼けた瓦礫」から思い出を探す人々。あの震災から早3ヶ月が経った。

JRが大阪から神戸まで通じて、ネクタイを締めたサラリーマンの顔も震災前に戻りつつある。そして、TVや新聞等のマスコミからも「阪神大震災」の文字が消えつつあり、全ては平常に戻りつつあるように感じられる。また、行政からはまちづくりの絵が示され、被災者でない自分を含めた俗に言う一般人にとっては、まちは平常時に戻ったかのように錯覚し始めている。

しかし、電車の窓から見る街なみは、全壊した家々はそのまま、マンションも傾いたままである。

電車を降りてまちを歩いてみると、震災のままと思っていたまちが徐々に変わり始めているのを感じる。自衛隊が瓦礫を撤去したからではない。大規模なビルが解体し始めたからではない。

全壊した商店街が、近くの河川沿いの公園に仮設店舗を建てて営業を始めた。

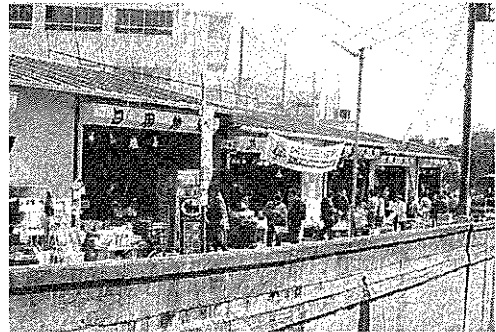
全壊したアーケードを解体し、オープンモールとなった三ノ宮センター街にも人々が戻ってきた。

震災見物で集まってくる人もお客様である。人々が集まってこそまちである。商売人のしぶとさ、したたかさでまちが復興に向けた確実な一歩を踏み出そうとしている。

(大阪事務所 なかつか はじめ)



車窓の風景



仮設店舗で営業を始めた長田商店街



アーケードが撤去された三ノ宮センター街

## アルパック (株)地域計画建築研究所

- 本社
- 京都事務所 〒600京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075) 221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒540大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06) 942-5732 FAX(06)941-7478
- 名古屋事務所 〒460名古屋市中区丸の内3-18-30・ツボウチビル2F/TEL(052)962-1224 FAX(052)962-1225
- 東京事務所 〒160東京都新宿区新宿2-5-16・霞ビル401/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- (株)九州地域計画研究所 〒810福岡市中央区天神1-15-1・日之出ビル6F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673
- (株)アルパックインターナショナル 〒540大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)965-2012 FAX(06)965-2014
- (株)都市居住文化研究所 〒604京都市中京区東洞院通り六角上ル三文字町225・朝陽ビル4F/TEL(075)252-2231 FAX(075)252-4417